

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	ライフエナジーチェェコロ		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 14日		令和7年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数) 26名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 14日		令和7年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 21日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職員による支援が充実している。 (保育士、作業療法士、認定心理士、児童指導員)	専門的な視点からの見解や評価を行うことで、利用者にあった支援が提供できるよう、職員間での十分な話し合いを設けている。全体で話し合う場を多く設ける他、管理者や児童発達支援管理責任者が個別に話しを聞き、職務改善に繋げる助言を行ったり必要に応じ、全体に共有しやすいよう配慮している。	スケジュールは個々に合わせた小集団と個別のそれぞれの活動を入れ、PDCAサイクルを実践しながら専門職の知識を活かした支援が行えるようにする。 経験年数に関わらず相互理解ができ、意見が出しやすいような関係性になることを目指している。
2	ご家庭や学校との連携や情報共有が十分に図れる体制やツールをつくり、支援に十分に生かすことができている。	日々の様子や保護者のご意見を伺う為、連絡帳でやり取りを行ったり送迎時の会話や電話での対応など、ご本人が伝えやすい方法が選べるようにしている。相談や苦情を受けた際は職員間で共有し改善策を考え丁寧な対応を心がけている。	連絡事項に対し、速やかに情報共有し職員全体で話し合うことで最善の対応と対策を考える。利用者と保護者の思いをくみ取り、支援に反映していけるようにする。
3	季節や月ごとに行事やトレーニングなど利用者が楽しく活動に参加できる企画を考えいる。	利用者の興味、支援としての目的、安全面の配慮など実践するにあたって、事前準備を十分に行うようにしている。	評価と反省を行い、次回の支援に繋げていけるようにする。 また、保護者の意見や意向を丁寧に聞きとり、利用者や保護者の思いを支援に反映できるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間での情報の伝達が十分に行えていないことがある。	職員の人数が多いことや、日により出勤する職員が異なる為全ての職員に情報が届いていないことがある。	全ての職員に情報が伝わるような伝達方法を考える。 職員間でこまめに声をかけ、確認し合うことを習慣化する。
2	死角になる箇所がいくつかあり職員の配置に対策が必要。	活動ごとに複数の部屋が区切られており全体を見渡しにくい環境であるため、職員の配置が偏ってしまうことがある。 曜日によっては、手厚い支援が必要な利用者が多いことで支援の手が足りないと感じることがある為、限られた人数で十分な支援が提供できるように対策を考える必要がある。	職員一人ひとりが全体の状況に意識を向け、お互いがフォローし合える迅速な行動と判断が取れるようにする。反省点がある時はその対策や改善方法を職員間で話し合う。
3	来所時間が遅いことで活動時間が短くなり、十分な療育が受けられない時がある。	基本の活動に加え月の課題や取り組みが入ると、余暇活動の時間が十分にとれないこともある。時間の理解ができる利用者は気持ちが焦ってしまい、活動に集中できない状況になり気持ちが不安定になる。	利用者が必要とする療育を優先し、達成感と充実感が得られる活動内容とスケジュール立てをする。保護者に対し、少しでも長い時間を事業所で過ごし十分な療育が受けられるようご理解いただき、利用曜日の変更等の検討をしてもらう。